

近世淡路の美術

江戸時代の淡路は、徳島藩によって開設された洲本学問所や、稲田家の創設した学問所・益習館が置かれるなど、学芸の伝統が息づく土地柄であり、加えて上方との距離の近さから、多くの文人墨客が往還する中、数々の文人・画人が輩出されました。こうした淡路の豊かな学問的伝統、書画などの文化・芸術活動の諸相について、近世淡路の美術史家として知られる黒田敏夫氏が長年にわたって収集され、当館に寄贈された近世淡路ゆかりの書画資料の名品を通して振り返ります。

1 黒田泊庵



酸莖図 黒田泊庵筆

2 淡路ゆかりの画人



庾嶺春信図 黙庵筆



松鶴図 黒田泊庵・黙庵筆



陪海嶠先生及諸子遊松帆浦十八韻
山口睦齋筆

3 淡路ゆかりの学芸



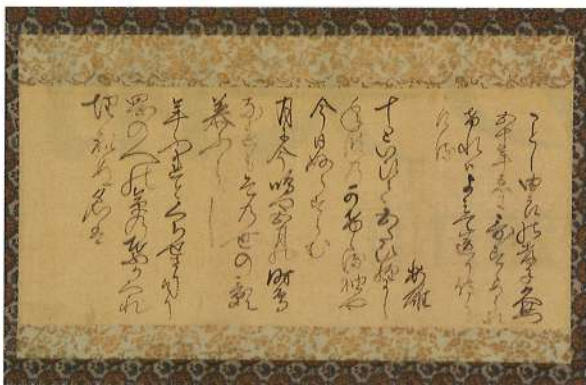
草書五絶「青松如在山」
稲田植美筆

4 幕末の淡路



淡路勤王四烈士図 倉淵玉静筆

5 淡路の文芸・書芸



和歌詠草「由良の孝子久左衛門五十年忌」 仲野安雄筆

※いずれも黒田敏夫氏寄贈